



仲之

新宿区立牛込仲之小学校

対話を通して

副校長

先日、小学校4年生の私の娘が、「英語系になったんだけど、分からないことがあるんだ…」と、いつになく神秘的な顔つきで話しかけてきました。「『次の授業の持ち物は何ですか?』って、英語で何て言うの。英語系は、授業の前の週、外国人の先生に、必要な持ち物を聞きに行く係なのだそうです。

「じゃあ、こう言ってごらん。」と、すらすらと英語で教えてあげられれば、父親と教師としての威厳が保たれそうですが、「What…」の後が続きません。そこで私は、「chatGPTに聞いてみよう。」と娘に提案しました。

「chatGPT」は、高度なAI技術によって、人間のようになつた自然な会話ができるサービスです。質問に対して生成された文章の見事さと、人間味のある回答には定評があります。また、その活用の仕方については、これからの学校教育の課題でもあります。

私は早速、パソコンで質問してみました。「あなたは小学生です。英語系になりました。外国人の先生に『次の授業の持ち物は何ですか?』と聞く係です。どう言ったらいいですか。」すると、1秒もしないうちにタタタッと回答が出ました。「英語で聞く場合は、こう言うと良いですよ!『What do we need for the next lesson?』少し丁寧に言いたい場合は、『Could you please tell me what we need for the next lesson?』このように聞けば、先生にしっかり伝わりますよ!」。

これがchatGPTの力か、と私は驚きました。その後、英語の読み方を娘に教えて、「じゃあ、お父さんが先生だと思って言ってみて。」と、画面を見せながら何度も練習をしました。たどたどしいけれど何とか言えるようになって、紙に印刷してフリガナを振り、娘に渡しました。学校で、どきどきしながら英語の先生とやり取りする娘の姿が、目に浮かぶようでした。

AIなど情報技術の進歩によって、私たちのくらしは昔とは比べ物にならないほど便利になっています。しかし、得られた回答や情報が本当に正しいのかどうか見極める力、どのように使っていくのか考える力、また一方で、単語を辞書で引き、その意味や用例について地道に調べていく力も、必要だと思います。そうした力を友達や先生との対話を通して、学年に応じて身に付けていくことが、これからの学校の役割の一つだと考えています。

道徳授業地区公開講座

道徳担当

道徳授業地区公開講座は、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むとともに、小・中学校等における道徳教育の充実を図ることを目的として、平成10年度から都内公立小・中学校等で開催しています。本校は、2月8日(土)に行います。1・2校時は、各学級で道徳の授業を公開し、3校時は、体育館で保護者向けの講演を行います。今年度は、元米沢市長の安部三十郎さんをお招きし、上杉鷹山についてご講演いただきます。ぜひ、ご来校ください。

そして、ご家庭で「道徳の授業を見て、私はこう思ったよ。」「今日の講演はこんな内容だったんだけど、あなたはどう思う?」と、話題にしてみてください。考え、議論する道徳は、色々な人の声を聴き合うことから始まります。身近な家族の中でも、新しい気付きが生まれるかもしれません。

外国語の授業について

外国語指導担当

本校では、5・6年生で週2時間「英語」の授業、3・4年生で週1時間「外国語活動」の授業を行っています。1・2年生も、年間で10時間程度、「外国語活動」を行っています。小学校における外国語活動においては特に言語活動を重視しています。本校においては「実際に英語を使用して互いの気持ちを伝え合う活動」を多く取り入れることにより、言語活動の充実を図っています。

昨年度より、本校では3～6年生では英語専科を中心とした授業を行っています。専門性の高い専科の先生を中心に授業計画を立てることで充実した指導を行うことができています。授業では学級担任や英語専科に加え、ALTによるチームティーチングを行いながら指導しています。

2月には全学級・学年で国際交流活動を行います。外国語の授業の内容と関連させて、言語活動の実践の場として活動を充実させていきたいと思っています。

本校のホームページのQRコードです。ぜひ、アクセスして細かな情報、登校許可証のダウンロードなどにご活用ください。

